九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[050]政治研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/16419

出版情報：政治研究. 50, 2003-03-31. 九州大学法学部政治研究室
バージョン：
権利関係：

『政治研究』総目次（創刊号～第五〇号）

創刊号（一九五三年二月）

歴史的発展段階を規定する力としての「生産力の欠乏」　今中次麿
スターリン『マルクス主義と言語学の諸問題』の政治理論への影響　竹原良文
〈紹介〉G・McT・カーイン著「インドネシアの民族主義と革命」　谷川榮彦
〈資料〉ソ同盟共産党規約の沿革
—民主的中央集権主義の歴史—　額田　坦

第二号（一九五四年二月）

十九世紀ロシアにおける革命的民主主義についての覚書　山内正樹／中村義知
一九世紀後半におけるイギリス政党制の確立
—議院内閣制との関連について—　北西　允
フイリッピン・ナショナリズムの形成について
—スペイン領有下における—　青野博昭

第三号（一九五五年一月）

アメリカの再建時代と政党　山田　浩
一八八〇年代のイギリス社会主義運動
—ハインドマンと民主連盟を中心として—　大西典茂
フランス人民戦線の本質について　平田好成
アメリカにおける第三党問題と労働者の立場
—進歩党の結成をめぐって—　徳本正彦

第四号（一九五六年二月）

『共産党宣言』における社会主義諸派
—『宣言』第三章の註解ノート—　嶋崎　譲
ナポレオン体制下のドイツの屈服と反抗　吉井友秋
中国第一次国内革命戦争と日本の労働者　岡本　宏
モンテスキューの「政治的自由」の概念について　梶原愛巳

第五号（一九五七年二月）

ナショナリズムの歴史的変遷　具島兼三郎
マルクス主義国家論序説　柳　春生
日本ファシズム組織の矛盾と特質　安部博純
三一年参院選挙における大分県自民党の「組織」活動の状態　衣笠哲生

第六号（一九五八年二月）

植民地主義の前進を阻む諸条件　具島兼三郎
第十六世紀の前半期におけるフランス国王の官吏の政治思想
—君主概念の変化を中心として—　毛織大順
知識人によって提唱されたアムステルダム・プレイエル運動　松隈徳仁
インド国民会議派の成立とイギリスの立場　毛利敏彦

第七号（一九五九年四月）

特集　政党・圧力団体・統一戦線

特集の方法によせて　嶋崎　譲
圧力団体と英国的適応の形態
—圧力団体の機能とイデオロギーの一考察—　井田輝敏／前田繁一
レーニンの「社会民主主義」論　衣笠哲生
反ファシズム統一戦線論の再検討　松隈徳仁
第二次大戦後における社共統一戦線の問題
—その思想的側面について—　毛利敏彦

第八号（一九五九年一一月）

ベンサムの政治的急進主義化とその対象　西口　進
フランス人民戦線運動に関する若干の理論的問題点
—序論的考察—　平田好成
モンテスキューの政治思想
—その貴族主義的保守性について—　梶原愛巳
孫文における三民主義の形成
—中国革命思想研究覚え書—　井田輝敏

第九号（一九六〇年九月）

国家と経済の相互連関についての一試論
—三〇年代を中心として—　竹原良文
イデオロギーとしての政治学の基礎
—マルクス主義政治学の方法によせて（二）—　徳本正彦

「戦争と平和」の論理　安部博純
〈研究ノート〉絶対主義のブルジョア君主制への移行について　岡本　宏

第一〇・一一合併号（一九六三年三月）

帝国主義復活の概念について
—批判的考察—　松隈徳仁
統一ゴールド・コースト会議の結成と暴動の勃発
—第二次大戦後のガーナにおける民族独立運動の開始と蹉跌—　谷本圭介
中国における「唯武器論」批判の思想について　高比良光司
スパルタクス派のプロレタリア党組織論
—ローザ・ルクセンブルグの理論を中心として—　松田秀人
藩政改革から公武合体へ
—明治維新政治史〔薩摩藩〕の一考察—　毛利敏彦
モンテスキューの政治思想における『自然法』理念
—研究序説—　梶原愛巳
〈研究ノート〉国家分類に関する若干の問題
—国家権力規定の方法をめぐって—　安部博純
〈研究ノート〉労働組合の統一についての覚え書
—組合分裂の調査から—　衣笠哲生

第一二号（一九六四年三月）

レーニン主義研究の方法的前提　嶋崎　譲
M・デュヴェルジェの政党論の方法について
—批判的考察—　近藤嘉昭
『憲法制定史の中の天皇制』その一
—ポツダム宣言作製過程を中心に—　木下　威
マックス・ウェーバーの議会デモクラシーと大衆デモクラシーについて　江口昌樹

第一三号（一九六五年三月）

軍縮交渉における問題点の推移　具島兼三郎
一八一四年フランス第七憲法の制定と修正をめぐる政情について　吉井友秋
オストロゴルスキー政党論の論理　吉瀬征輔
〈政治研究会記録〉柴田高好『マルクス主義政治学序説』を読んで　近藤嘉昭／吉瀬征輔／江口昌樹／秦明夫／松富弘志／山本隆基

第一四号（一九六六年三月）

ミル父子の政治思想　西口　進

ガーナにおける民族主義指導権の成立
―西アフリカ民族会議（一九二〇―一九三〇年）を中心に―　谷本圭介

H・J・ラスキの政治理論における連立主義　秦　明夫

プラグマティズム思想運動の基本的性格と方法　森本哲夫

第一五号（一九六七年三月）

猪俣津南雄の戦略・戦術論　岡本　宏

戦後日本のナショナリズム　安部博純

初期ラスキのデモクラシー論　山本隆基

都市化現象下における住民の政治意識　徳本正彦

第一六号（一九六八年三月）

王政復古の政治思想
―フランス革命の影響―　梶原愛巳

アメリカ保守主義の特質
―合衆国憲法の制定と『ザ・フェデラリスト』―　井田輝敏

〈自然発生性理論〉の問題とローザ・ルクセンブルク理論の特質
―最近の東独におけるスパルタクス派評価への批判として―　松田秀人

ジュネーブ協定の侵犯
―ゴー政府とアメリカによる―　小沼　新

第一七号（一九六九年三月）

核時代の権力政治
―戦争と平和の問題を中心として―　具島兼三郎

エドマンド・バークのフランス革命観の研究
―（第一部）一七八九年八月～一七九一年八月―　森本哲夫

ルソーの政治思想研究序説（一）　田中節男

〈資料〉G・リューデ『ゴードン暴動。暴徒と犠牲者に関する一研究』　竹原良文／岡部悟朗共訳

第一八号（一九七〇年三月）

ソビエト社会主義国家におけるプロレタリアート独裁の国家から全人民国家への転化について　長沼庄司

統一戦線理論の形成過程
—『労働者政府』論を中心として—　石川捷治
ルソーの政治思想研究序説（二）
—ルソーの人間論—　田中節男
〈学界動向〉フランスにおける共産主義の研究について　平田好成

第一九・二〇合併号（一九七一年一一月）

フランス伝統主義におけるド・メーストルの「主権」概念　梶原愛巳
無産階級の過激社会運動取締法案反対運動
—「方向転換論」後最初の政治運動として—　西川洋
ロベスピエールの政治思想研究序説
—革命の理念と動態—　瓜生洋一

第二一号（一九七三年六月）

インドネシア革命論の一視角
—四五年革命の検討—　木村宏恒
J・リルバーンの中期政治思想　山本隆基
現代イギリス政治理論研究
—カール・R・ポッパーについて—　岡部悟朗
コウルリッジの初期政治思想　岩岡中正

第二二号（一九七五年五月）

ジョン・ロックにおける国家と宗教
—宗教的寛容論を中心として—　森　康博
フランス革命とサン・ジュストの社会構想　瓜生洋一
若きマルクスの国家観の転回　大藪龍介
〈研究ノート〉二つの「俗人説教」におけるコウルリッジの政治思想　岩岡中正

第二三号（一九七六年三月）

J・S・ミルの政治思想における多数者と少数者
—ベンタムとの対比において—　西口　進
マルクス、エンゲルスのイギリス国家論　大藪龍介
〈資料〉P・ビュルジュラン著『J・J・ルソーの国家論』　田中節男訳
〈書評〉北島平一郎著『近代外交史—ナポレオンからカイザーへ』（創元社、一九七五年刊）　石川捷治

第二四・二五合併号（一九七八年二月）

S・T・コールリッジ『教会と国家』論

—コールリッジ政治思想続編—　岩岡中正
ボーリングブルックの《イギリス憲法》観
—ニュー・トーリー主義を中心に—　森　康博
発生期の人民党運動とその地域的特性
—一八九二年大統領選挙まで　神江伸介
天皇制イデオロギーと「臣民」の形成
—社会化機関としての学校・軍隊および神社—　安部俊二

第二六号（一九七九年三月）

「国家論」の対象　大藪龍介
イギリス労働党と労働組合
—党規約第四条問題の決定過程における組合の役割—　永山正男
〈研究ノート〉政党再編成における第三党の位置　神江伸介

第二七号（一九八〇年三月）

自由主義および自由民主主義の論理　大藪龍介
政治学における権力の概念
—権力の実体概念と関係概念を中心として—　大賀睦夫
総選挙における労働組合機能の研究
—「圧力団体化」の意味するもの—　永山正男

第二八号（一九八一年三月）

イギリス革命論の諸問題（一）　大藪龍介
ベトナム民族解放闘争における社会主義建設の問題
—一九五四～六〇年—　石田正治
ジョンソン政権とベトナム戦争開始への道　丸山　泉

第二九号（一九八二年三月）

南ベトナム解放民族戦線結成の主導権　小沼　新
ケネディ政権のベトナム政策　丸山　泉
アメリカのアジア政策の形成
—第二次世界大戦直後におけるベトナムへの介入を中心として—　石田正治

第三〇号（一九八三年三月）

ロゴスの政治思想
—プラトン『クリトン』の意味するもの（序）—　近藤嘉昭

維新変革における政治的近代化を切り拓く政治主体性とそのエートスの成立
—ペリー来航前夜迄の横井小楠の思想と行動を中心に—　楢原孝俊
興亜会の成立　黒木彬文

第三一号（一九八四年三月）

イギリス革命論の諸問題（二）　大藪龍介
興亜会の壬午軍乱への対応（一）　黒木彬文
横井小楠における政治思想の原点構造　楢原孝俊
米ソ冷戦の数量的解析序説　石田正治

第三二号（一九八五年三月）

イギリス革命論の諸問題（三）　大藪龍介
横井小楠—朱子学継受を契機とする政治思想の転換
—「勢」から「徳礼」へ—　楢原孝俊
マレーシア連邦における統合と分裂
—シンガポールの分離をめぐって—　田村慶子
国体明徴運動の発生　平井一臣

第三三号（一九八六年三月）

トックヴィルと一八四八年革命　小山　勉
ベトナム戦争の拡大過程
—一九六五年夏〜六六年春—　丸山　泉
〈事例研究〉香川の選挙　神江伸介
〈講演〉二〇〇一年のシンガポール
—都市国家の行方—　シア・チーミャオ（田村慶子訳）
〈書評〉J・サラバナムトゥ著『独立のジレンマ—マレーシア外交政策の二〇年　一九五七—一九七七年』　田村慶子

第三四号（一九八七年三月）

コムソモールの自己批判カンパニヤをめぐって
—スターリン体制形成過程の一断面（一九二八—二九年）—　松井康浩
自由民権運動と万年会の成立
—非藩閥政府高官・渡辺洪基の殖産興業活動—　黒木彬文
〈書評〉O・K・フェルト著『ファシズム、ミリタリズム、日本主義—日本の英字新聞にみる一九三〇—一九

四一年の危機の時代の解釈』　平井一臣

〈紹介〉世界政治学の動向
—William G. Andrews ed., *International Handbook of Political Science*, Green-wood-press, 1982. を中心として—　徳本正彦編

第三五号（一九八八年三月）

シンガポールの人民行動党
—一党支配の確立—　田村慶子

横井小楠
—近代政治思想形成史における巨視的位相—　楢原孝俊

ユーゴ＝ソ連紛争の史的展開（一九四五—一九五六年）
—一試論—　木村　朗

〈書評〉W・J・チェイス著『労働者、社会、ソヴェト国家—モスクワにおける労働と生活　一九一八年—一九二九年』／L・ヴァイオラ著『祖国の最良の息子達—ソヴェト農業集団化の前衛にある労働者』　松井康浩

第三六号（一九八九年三月）

国際政治の激動を見つめて
—一学徒のあゆみ—　谷川榮彦

フランス極右の現在
—「フロン・ナシオナル（国民戦線）」とルペン—　畑山敏夫

アメリカの対反乱政策
—ベトナム戦争とその教訓—　丸山　泉

H・アレントにおける共同性の探求
—「仕事」・「労働」・「活動」の概念を中心として—　伊藤洋典

〈書評〉ジェフリー・C・アイザック著『権力とマルクス主義理論—リアリズム的視座—』　中川伸二

第三七号（一九九〇年三月）

N・プーランザス国家論再考
—国家と権力の関係を中心に—　中川伸二

戦後ソビエト対外政策の一展開
—フルシチョフ期における理論的枠組の形成と確定—　岩下明裕

〈研究ノート〉甲申政変期の義勇軍志願運動と脱亜論

〈研究ノート〉近年のアレント研究　黒木彬文
伊藤洋典

第三八号（一九九一年三月）

コミューン型国家論をこえるために（一）　大藪龍介
横井小楠における学問方法の歴史的位相　楢原孝俊
〈事例研究〉「海の中道海浜公園」における官民関係の形態　伊藤洋典
〈書評〉小池治著『アメリカの政策過程と政府間関係』（第一法規、一九九〇年刊）　大河原伸夫

第三九号（一九九二年三月）

興亜会、亜細亜協会の活動（一）　黒木彬文
P・ビルンボームの「国家」概念　中野裕二
〈研究ノート〉ゴルバチョフ時代の国家主権論争
—国際法理論の転換を中心に—　岩下明裕

第四〇号（一九九三年三月）

陸羯南の「人道」観に関する覚え書き　本田逸夫
日本の防衛政策と軍事力漸増方式の形成過程
—戦後初期における防衛政策の一考察—　郝　暁卿
ドイツ国家国民党と全国農村同盟一九二八—三〇年　熊野直樹
Political Parties in Conflict in Japanese Politics　Yuzo Yabuno
〈翻訳〉転換期の国際連合
—第四七回国連総会ブッシュ米大統領演説・全訳と解説—　岩下明裕

第四一号（一九九四年三月）

ロマン主義における共同性　岩岡中正
横井小楠における『天』観念の原理的転生　楢原孝俊
モンテスキューにおける共和政の理念と君主政
—『法の精神』における「富」と「名誉」—　安武真隆

第四二号（一九九五年三月）

共和政成立以前のミルトンにおける自由と秩序
—主教制度論争を中心にして—　清瀧仁志
〈研究ノート〉ソビエト国際法学者の肖像
—九三・九四年のモスクワ取材から—　岩下明裕
〈資料紹介〉曽根俊虎「鉄窓漫吟」

―資料の解説と紹介―　黒木彬文
〈紹介〉グスターヴォ・コルニー／ホルスト・ギース『血と土―ヒトラー国家における人種的イデオロギーと農業政策―』　熊野直樹
〈参加記〉日中学術交流講演会参加記　井竿富雄／山田良介

第四三号（一九九六年三月）

欧州連合（EU）における「サブシディアリティ原則」―善意の専制主義を超えるもの―　八谷まち子
É・デュルケームの近代国家像―政治社会における共同性原理の探究―　廣澤孝之
〈資料紹介〉創生会朝倉郡支部機関紙『革新興論』―解説と紹介―　平井一臣
〈紹介〉歩平著／山辺悠喜子・宮崎教四郎監訳『日本の中国侵略と毒ガス兵器』明石書店、一九九五年　井竿富雄

第四四号（一九九七年三月）

冷戦期における中国教育の動向―朝鮮戦争前後（一九四九～一九五五年）における中国教育の変容に焦点を当てて―　郝　暁卿
価値観変化と政治変動―R・イングルハートの理論枠組み―　金丸裕志

第四五号（一九九八年三月）

陸羯南の「国民的特性」論―その「自由主義」論との関連を中心に　本田逸夫
「九州・沖縄」論小考―視座としての「地域」論をめざして―　平井一臣・石川捷治
韓国国政選挙における地域割拠現象再論―第一五代大統領選挙を対象として―　出水　薫
〈研究ノート〉高度情報化社会と政治過程―電子ネットワークが変える政治・市民―　上野眞也
〈書評〉押村高著『モンテスキューの政治理論―自由の歴史的位相―』早稲田大学出版部、一九九六年　安武真隆

第四六号（一九九九年三月）

功利主義と政治的思慮
―J・S・ミル『代議政治論』を手掛かりに―　関口正司

初期ロックの政治思想
―「良心の自由」をめぐる議論を中心に―　朝倉拓郎

『君主論』におけるマキァヴェッリのフィレンツェ統治と征服地支配論　鹿子生浩輝

ポスト冷戦期における国際統合理論の視点
―オープン・リージョナリズムの批判的検討―　椛島洋美

コミトロジー考察
―だれが欧州統合を実施するのか―　八谷まち子

〈資料紹介〉『ＣＩＳとは何か―ロシア・ウクライナ・ベラルーシを中心とした国際法専門家の見方―』北海道大学スラブ研究センター、一九九八年　岩下明裕

〈書評〉サミュエル・F・B・モース著『自由を根幹とする合衆国の諸制度に外国人移民が与える切迫した脅威と、帰化法の現状』　山中亜紀

第四七号（二〇〇〇年三月）

ミルの寛容論　関口正司

性別・年齢集団と政治参加
―熊本県民の政治意識と投票行動を中心に―　上野眞也

ローマの再生
―マキァヴェッリの『リウィウス論』とルネサンス・イタリア―　鹿子生浩輝

グローバライゼーションと地域秩序形成
―アジア太平洋の地域形成が持つ意味―　椛島洋美

現代日本における代議士と地方議員との系列関係の変容　藤原祐子

〈資料紹介〉『福岡県田川市の財政と歴史』　光本伸江

〈書評〉一七世紀における権力と国民統合　Fukuda Arihiro, *Sovereignty and the Sword: Harrington, Hobbes, and Mixed Government in the English Civil Wars* (Oxford University Press, 1997)　清瀧仁志

第四八号（二〇〇一年三月）

トマス・アーノルドにおける教育と国民統合　清瀧仁志

陸軍におけるシベリア出兵構想の変容　井竿富雄
アメリカ・シオニスト運動と「パレスチナ・アラブ人問題」
—ビルトモア会議を中心として—　池田有日子
トマス・ホッブズの「専制的支配」論
—『法の原理』および『市民について』を中心に—　久野真大
〈書評〉Beate Kohler-Koch and Rainer Eising (ed.), *The Transformation of Governance in the European Union*, Routlegde/ECPR Studies in European Political Science, 1999, pp.320.　八谷まち子

第四九号（二〇〇二年三月）

ジョン・グレイの現代イギリス保守主義論
—その零落と再生のアジェンダ—　森本哲夫
南原繁思想史論の批判と継承
—主にナチズム論との関連から観た—　本田逸夫
マシュー・アーノルドにおけるデモクラシーと教養　清瀧仁志
APECの制度化に関する一考察
—アメリカのアジア太平洋への接近を中心として—　椛島洋美
ビジネスとしての政治
—ウォルター・バジョットの議会改革論—　遠山隆淑

第五〇号（二〇〇三年三月）

宮廷から文明社会へ
—初期近代ブリテンにおける「文明」と「作法」—　木村俊道
ホッブズ「政治哲学」におけるコモンウェルスの成立方法　久野真大
小泉政権の政官関係にみる「本人の複数性」問題　原　清一
一九三一年の独墺関税同盟計画
—「パン・ヨーロッパ」と「アンシュルス」の間で—　北村　厚
中国共産党の「朝鮮族政策」に関する歴史的考察
—延辺における整風運動と文化大革命を中心に—　金　哲
〈研究ノート〉ホイッグ的歴史解釈とミルトン　清滝仁志

〈第五〇号特別企画〉『政治研究』第五〇号に寄せて

谷川榮彦／安部博純／徳本正彦／小山　勉

〈第五〇号特別寄稿〉ジャン・ジャック・ルソーの政治哲学

柳　春生